

津田左右吉物語

第18回

米寿祝賀会

・老いますな津田先生と一代の学徒つどいてことほぎ申す
 ・君ありて開きたまえる研学の道さやかなり広らに遠く
 ・先生とともにありよといきほえる学徒の群れに灯とあらしませ

これは現代屈指の歌人窪田空穂が、左

右吉の米寿祝賀に寄せた歌です。空穂は左右吉の人格を尊敬し、学問の業績をたたえ、これからも研究に励む者の灯ともひであってほしいと願って歌いました。

この祝賀会は、教え子の天野貞祐氏あまのていゆう（元文部大臣）をはじめ、早稲田大学（以下早大）文学部の教授らによって開催されました。ちょうど左右吉の88回目の誕生日であった昭和35年10月3日、早大小野記念講堂で行われ、左右吉と親しい人々のみ130人が出席しました。



老松の盆栽が飾られた簡素な式場で、早大交響楽団の演奏とともに笑顔の左右吉が入場し、祝賀会が始まりました。日ごろから極めて謙虚で、大げさなことを好まない左右吉のことを考えた祝賀会でした。



▶米寿祝賀会にて。左から津ね夫人、左右吉、天野貞祐氏。